

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

別添資料5

公表: 2024年 3月 1日

事業所名 こどもプラス宇都宮北教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	10		危なくならないように常に片づけている。	
	2	職員の配置数は適切である	10		利用者を細やかに見られるように配置されていると思う。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	10		絵カードなどを利用してわかりやすくしている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	10		利用者が快適に過ごせるように温湿度や換気にも気を配っている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	10		毎月スタッフ会議を行い情報を共有している。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	10		保護者の方と細目に連絡を取って要望などを伺っている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	10		毎年公表し会議等の議題に上げ話し合いを行っている。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	5	わからない。	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	10		様々な研修の機会を設けて資質向上に努めている。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	10		毎月のケース会議でスタッフ間で考えた上で作成している。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	9	1		利用者の特性や個々に合わせてアセスメントを行っているが、標準化されたものがより良くなるよう努めていく。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	10		毎月のスタッフ会議で話し合っている。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	10		支援内容を共有して支援を行っている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	6		正職員を中心に立案し会議等で全体に周知する形を取っている。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	10		毎月見直しを行っている。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	10		利用者の状況に合わせて作成している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	10		注意点等は共有し支援にあたっている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	3	全員での打ち合わせは難しいが、気付いた点等は全員に共有できるようにしている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	10		毎日記録をつけている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	10		しっかり行っている。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	10		中心となる職員が代表として参加している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	10			
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	3	担当者と担任、保護者等を含めて支援についての意見の交換や情報の共有を行っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	3	担当者と担任、保護者等を含めて支援についての意見の交換や情報の共有を行っている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	10		研修等の機会があれば積極的に受講している。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	7	3	公園等で触れ合う機会が多い。	共通のイベントに積極的に参加できる機会を増やしていきたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	2	8	わからない。	地域との連携を通してより良い支援に役立てていきたい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	10		LINEを活用して細目に保護者と連絡を取っている。	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	7	3	希望があった保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている。	保護者に対してさらに活用してもらえよう日頃から助言等を行っていく。	
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	10		利用契約時に十分に説明を行っている。		

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	10		アセスメント等を通して支援内容について保護者とともに内容を確認している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	10		来迎時や電話、LINE、面談等でその都度対応している	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	5		父母の会等はないが、保護者同士が情報交換を行えるような場の提供にさらに尽力していきたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	10		相談等があった際はスタッフ内で共有し意見を出し合い早急に対応している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	10		毎月プラス便りを発行し活動内容や様子等を発信している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	10		流出等がないよう管理には徹底している	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	10		コミュニケーションは徹底して行っており、ことばの療育にも力を入れている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		10		地域住民を招いての行事等はできていないが地域に事業所を知ってもらうための取り組み等に努めていきたい。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	10		スタッフ間では会議で内容等を定期的に確認している。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	10		定期的に避難訓練を行い非常時に備えている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	10		利用者の服薬や発作等については会議等で情報や対応を周	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	10		おやつ提供時等内容物には十分注意して提供している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	10		その都度共有しまとめている。	より見返しやすくなるものの作成に努めていきたい。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	10		虐待防止研修等で定期的に虐待防止についての周知を行っている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	10		利用契約時等で身体拘束についての説明を十分に行いご理解を得ている。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。